增補戲子名所圖會 上

特別
ヤ13
3980
1

曲凡弄形骸世塵
亭窓月照野雲心
馬蹄煙裡罩楊柳
琴書既忘老身

右録

曲亭馬琴翁讃

京山傳人

D.162
vol. 1
38
TOYOKUNI
Yakusha
門チ13
號 39950
巻 1

小澤文庫

自叙

太極静かくようこのうち。天より三光の観相あり。地より三形の絶景多し。遠近濃淡ともいとゞ。須臾明暗乃月新たに引窓より漏るゝ小鳥く吉野龍田の紅葉。鍾馗よりたゞ一杯の麦飯を恰し。足ふ二合ゝ肉刺を端出し。章かく山川ふ抜ぐふと。いふとも。鳥嘴それ紅の益あらん。近く是を求まバ。新より昭眞の名所図。脊に七丸の英跡あり。鯛乃名産ハ庵丁家ふ称せれ。菌乃名所ハ葛西ふまし。

所人ハ居ゝ名所を知り。偏用い拙ゝ用医者を知る。巨燵無業門の犬。尾をあり丸ゝ雙六ゝで京へぐふ上らぎる。痿痺より芳るの識ハ者ハ。拙然くく八方を辯じ。安然とし〻ぐ四海ふ抜ぶれ皆書画の功なを。こゝを汲く近ゝ世ゝ行ゝ都名所図會に倣ふて。我子名不男名三郎を作る。而謂盲目の揚書ハ〻ぐも蛇ふ怖ぎる田夫山妻ハ〻ぐ。必ふ此書を熟覧しく志ゝて後戯場ふ抜ぐ。彼一番嗅ゝを〻ぐるの悔なゝらんゝの狡。ゝを張の〻八

ちと知の素人落を後ふせぐ。京川豊國が草紙賃く賣物か花を飾り。ちらも招牌よ彷彿紀。鶴屋が本鄽ハ正銭相よ投じく。一番京気をえらぶ事にかん。

寛政十二年庚申孟春採筆於飯顆山草堂

曲亭馬琴

戯子名所圖會巻之一目録

三座臺濫觴

勘三樓興基
擔山
三座舞臺
糶出島　丈广鷺祠
拔敷ヶ嶽
雜子町
中二界　三階松
番附神
市村竹城之訳
鼠木道
大臣柱松
土間内海　大首沼　歩橋
韓拔敷ヶ嶽
稲荷町
狂言之山
芝井碑
森田神宮之傳
留場仕切場開
羅漢堂
切落れ辻子
樂屋洞
頭鳥部谷
新淨瑠理坂

曲亭馬琴子編

凡例

一 此書ハ三勾欄戯棚山棚戯房ちうはしめて。梨園子弟當時名ゝ紀山川草木を撰ゝ出し。且画圖紙摸写しく其風藝乃仮しゝを。今古況ともべきれ狂奇殺白ゐれハ悉其情ゝ挙出せり。その余編人の為を紀ざるものハ皆撰者慢の理弟と云るべし。

一 姓名ハ措訊しく次第ゐ紀ぬく。又おのづゝ次第あるハ仇ゝ時技ゝ来流の子弟ハ。直ゝ老俳優の後ゝ拉ゝ ちむゝ とあゝ。已富士を畫ゝ孫山を添る類ひとし。其後のゝ事。塚紙あゝざるを以く咸ハ載せず。是親ゝ風京なくして。図画の功

一 あゝざれハなり

一 近ごろ名の俳優といへども。今退廃ちくその迹なく。又ありとハいへども。その名のいまゝ消へざるものハきく不載。所謂秀鶴寺。十町瞬のゝ。ひとり。熊十字街。鳥の中洲ハいまゝ地ゝ風京なくいへども。今古況の餘波ゐるかゆゑ名ゝ来ゝ出せり是名所と号るの大意なり。

一 此書ゝ洩れる當場乃俳優をゝ。菊三川。菊之の。魚楽村。雷介。杜濱。藏川。蟠風。吉其外。許多の名所ゝ所を。姑く後篇ゝ回づく寔ゝ洩ゝ。あるゝ。心洩れいるをのして拙しとをるとをれ。物編ハ上中下乃三

幕ふ張りかゆるふ。已ことをわぎ二艶阪の後篇ふのこ
せり。

一 六代目市川三舛主ハ去年五月十三日物故ものいへども
此地ハ東都俳優当一の名ふとゝひ。且三舛寺世を早う
せりと雖も白猿隠居を中の巻のもじめに生せり。猶七代
目お続の縁紀ハ。後篇ふ書載もべし。

一 捻くの名所去哉去ちう秋ちぐの風景を注せるう面
ふ。艶阪よいうてハ少しづれ名猪をあゝん独よし
やあをら川の渕淑。いさうのかうわあうとと。故を注な
く新しきを初るもれハ世書ふ〳〵く。戯子ふ益の
名所圖會ちり。彼一年限の評判記とハ同じゝらべ。

一 本朝俳優の名。神代の巻ふ生くその由て来ること久し。或ハ
大古俳優伝説ふ称せるものハ。今の戯場のもとう
あゝぶといふ説あれども。爭ゝその源ふ考へたく
ふ流を汲むものあゝんや。文治のむし白拍子狂言称せ
女樂。ふ戯子のたぐひなり。今の戯場ハ永禄乃ちろ
名古屋山左衛門ちいふ者ものしゞめちう。又唐土漢武朝
より。樂府と稱しくふ。ふ詩伎倫ふ〳〵舞
しことゝあゝく。こを奉邸の白拍子ふ。朗詠ふと合せ
く舞しよ図ドうべし。唐玄宗皇帝の時。伎奇院

本として院本の鼻祖とも。全備の風姿と宋の五花爨弄の舞より起る。志ゝして後元明ゝくゝりて。勾欄戲子といふもの出来く。且小旦生丑両脚。浪子お諢。丑口技小軍ぞ。その形勢本邦のこのゝことゝ。夫花鳥風月八佰客へ向ぞ。千山百川女児の貝を競しゝ。只戲場のゝ雅俗とゝく。老若ゝく。鬱を散じ樂を迎ふるの佳境。風流第一の名所なり。

日月照江海油風雷
鼓板天地間一書戲
場爨弄且文武未
莽操丑淨古今乘
所向脚色

28

三座ちくらのづ
勾欄圖

来くみの
橋よ
とげき
あ
後閑
そこむ
所を
桜ぬ
紅葉

戯房後門圖

三徑秋花裛露新
重携酒伴過城闉
只應夜夜西江月
留照筵前舊舞人

朱彝尊

芝居三座の臺一所の神。本朝神樂の宮初天鈿女命也。酢芹命曾我大明神なりて。今ハ生且人物社なる所屋とあれり。曾我物語の巻八の巻に

おもり芝居と名づくるハ或書ハ云むし南都南京堂の前乃芝居に三株の芝生り。形土芝に似れバとてこれを粗云づくと名づく。又翁草千載艸と號ず。三番草の權輿なり。後世名古屋山三と云ふ。此芝を小野小樹うつ。後四条河原ハ川もある時この芝居、忽ち崩れ三つの井戸となる。水極て多ハ流れて巷ハ陰なり。是江戸三芝井ハ起ル。ある人来りてこれを汲ミ見るときハ憂を忘れ歌を詠ず。遠ハ都を捨て遠ハ命の洗濯もなるにいなりて。ハ柳の姫をわとせり。人てろこ

金銭を投ずれバ泉忽ち涌出る。後ち此井の中を覗くるを弥ゝ是を汲ミ後世俳優の名。ハ水ハ汲ミ尽る。市川

澤川沢村小佐川佐野川中村わり。又筆屋小樹のうつ。あり。

時此僧人。今ハ芝井と芝居小書紙なり。是等の緒流ハ杜選なり。明ゝ伝ずべし。

勘三樓　開山猿若道作　老人寛永元甲子年二月十五日當山を

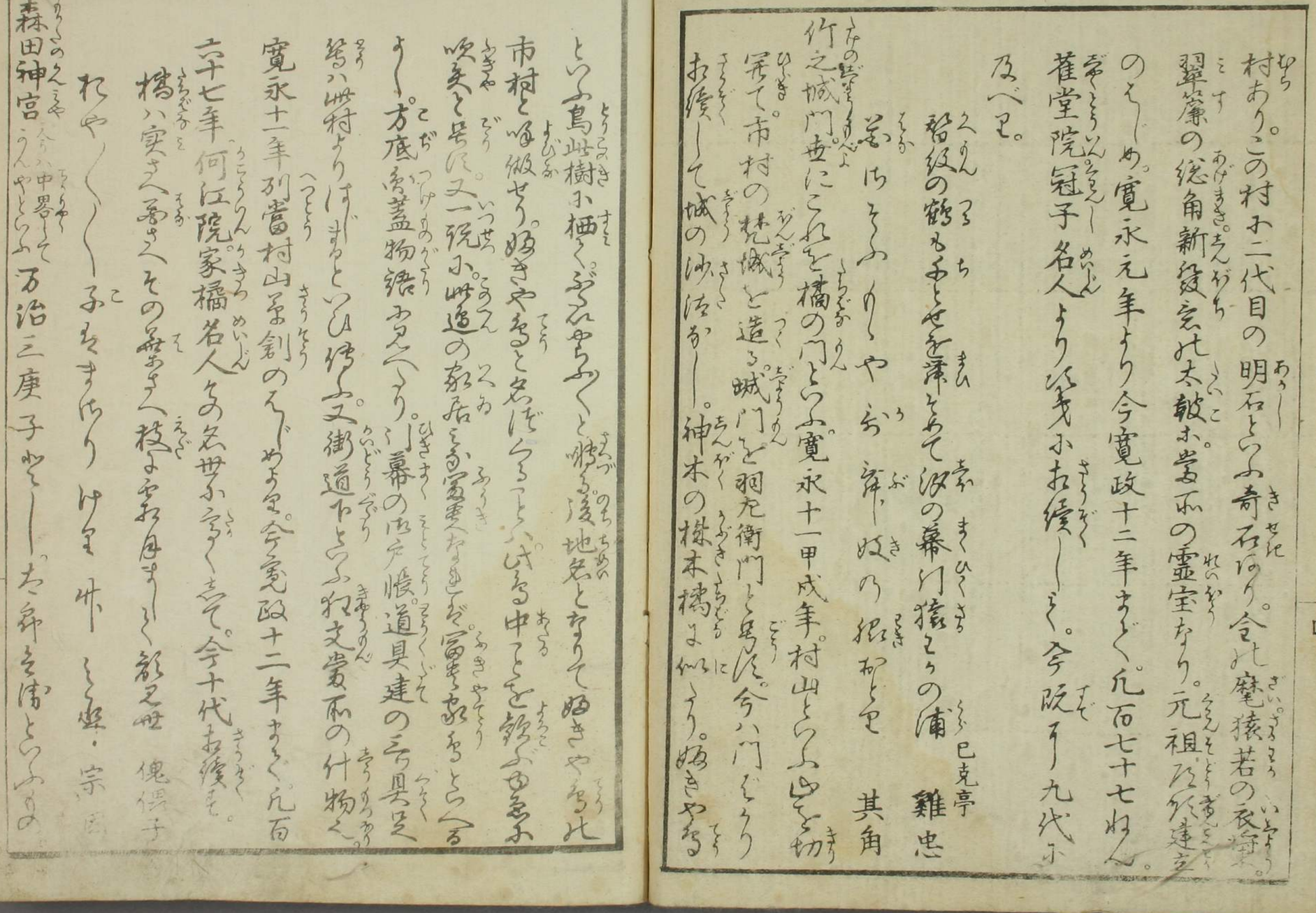
冠基して。一つの樓臺を建立て。これを猿若の勘三樓と號。

三株の神木あり。その樹を株木とす。今ハ小樹むし　出雲の勘

巫女。お國が歌舞の名木なり。勘三樓の株木ハ形紙書の如く樹樹ハ

に似ず。伝ゝその形乃名を板紙書と唱ず。葉ハ体付とす

村あり。この村ハ二代目の明石といふ奇石なり。今ハ麑猿若の衣冠ハ
翠簾の総角新殿宮ハ太敏ハ。当所の霊宝なり。元祖ハ[illegible]建立
のなり。寛永元年より今寛政十二年まで。凡百七十七ヵ年。
萑堂院冠子名人より数ハ九代ハ
及べし。



碧紋の鶴も子とせを澤とあて汝の幕ハ猿とうの浦　巳克亭　雞忠
忘ちそふ[illegible]や　ハ　年　数の　紀和とも　其角
竹之城門西にこれを橋の門とふ。寛永十一甲戌年。村山とふ山を切
開て。市村の梵城を造る。城門を羽左衛門と名ハ。今ハ門ぐるう
お[illegible]して城の沙汰なし。神木の株木橋ハ似う。始きやなる

とふ鳥此樹ハ栖ぐ。ふるやなふくと称る後地名となりて始きやなる此
市村と唱ハ俗せり。始きやなると名ハ[illegible]ふる中ことを新ぶ山ハ
吹矢と名ハ。又一院ハ。此道の家名ハ[illegible]富家なるもの[illegible]
す。方底ハ蓋物語ハ[illegible]。幕の西戸帳。道具建の三ツ具足
等ハ此村よりハ[illegible]。又御道下とふ狩文裳而の什物
寛永十一年別當村山家創のなり。今寛政十二年まで。凡百
二十七年。何江院家橘名人なり名世ふ[illegible]。今十代お[illegible]
橘ハ実ハ人家の人その家ハ[illegible]
わやくふ[illegible]
森田神宮　万治三庚子年[illegible]

龍鐘莫怪樽前客
子弟梨園皆白頭
朱竹垞老人

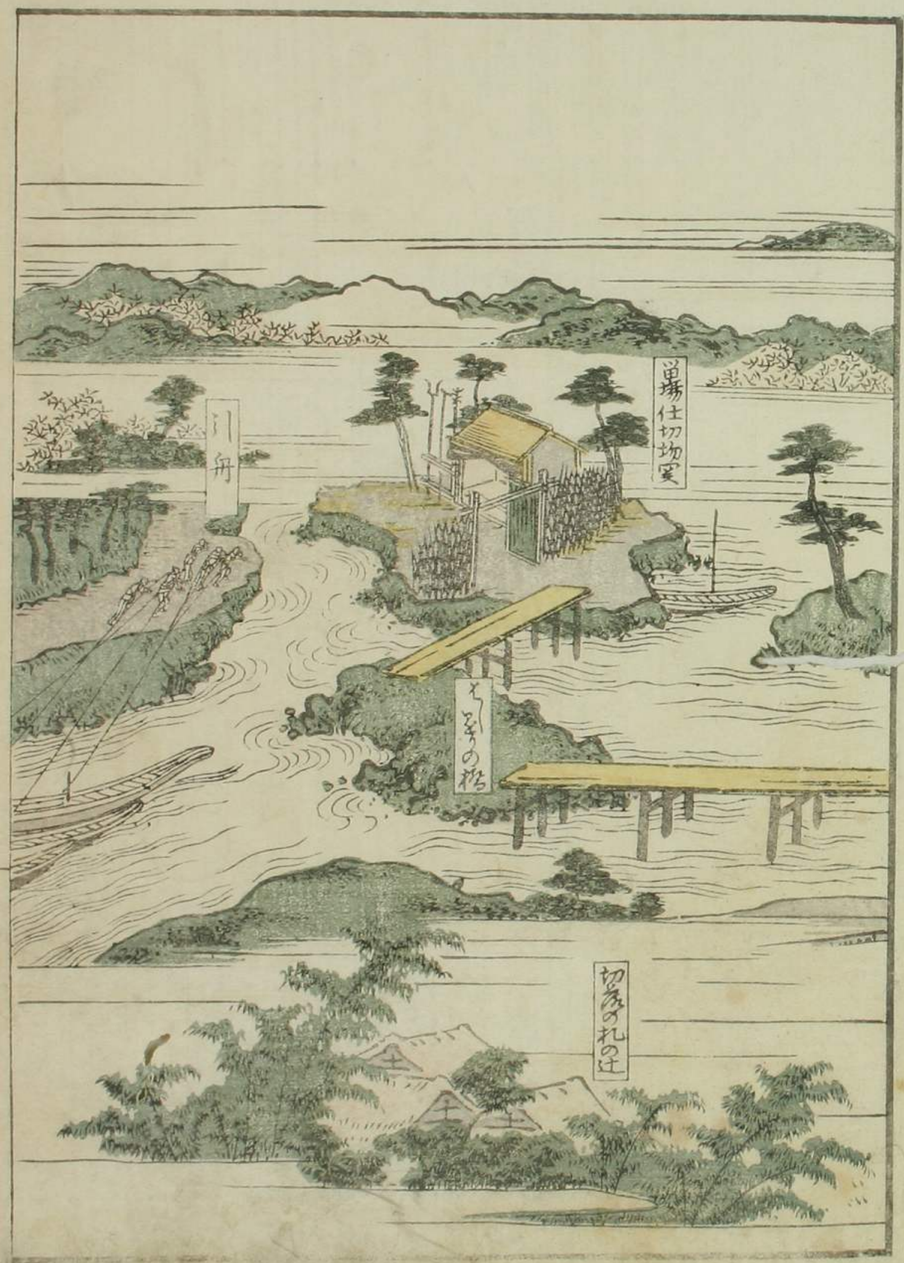
ほのぐらき
うちはれ
あめの
師竹菴吾山

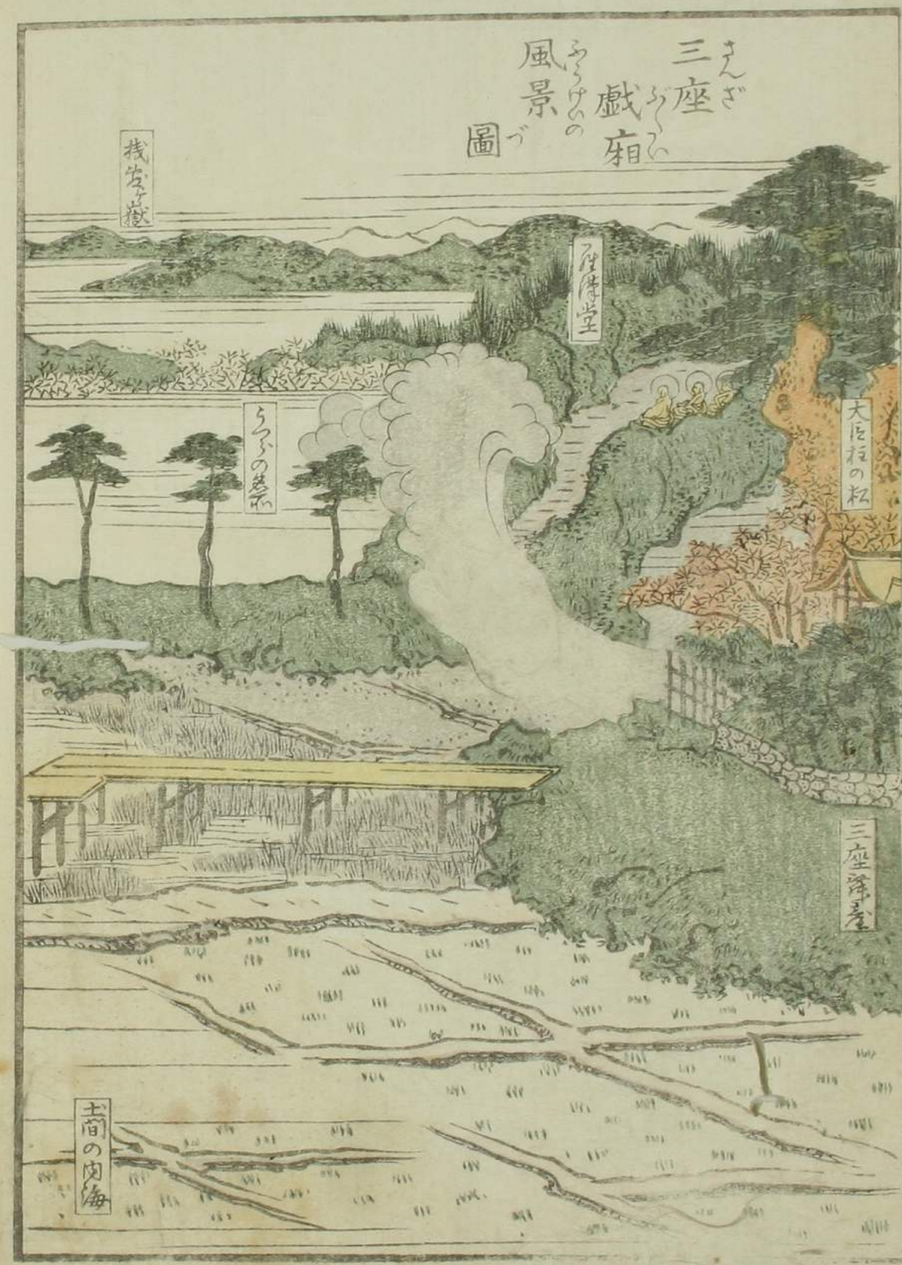
ふ思後の霊夏ふようく此祠を建立して一つの仏舎利と歌の
柱言霊ふ[illegible]せり。神木の株木[illegible]似くり。此樹[illegible]
こゞ紀[illegible]といふ鳥栖く。帰[illegible]ぬきや[illegible]の如し。此[illegible]人は嬌く
来ることを求る[illegible]ふ嬌来[illegible]ることを[illegible]ける[illegible]べくだ。
動き杜光[illegible]唐[illegible]尉より。今の[illegible]ふ[illegible]て[illegible]ふ九代[illegible]
三年より。今寛政十二年ふ[illegible]九百四十二年ふ[illegible]べり。

櫓山　この山三[illegible]あり。山の勢四角ふ[illegible]雲の幕を[illegible]り。
嵐木道　うしろ八縄張周夜坂[illegible]り。此道ふ[illegible]人[illegible]立[illegible]ふ
ある。[illegible]ふ[illegible]戸数[illegible]ありて[illegible]。十六文くと帰。この[illegible]

雑忠

川越[illegible]。此ふの風俗人の名を[illegible]。只羽織[illegible]合[illegible]といふて。
その形を[illegible]人の名[illegible]。是[illegible]。[illegible]
類あり。[illegible]ふ古[illegible]の遺[illegible]
留場仕切場廓　嵐木道の[illegible]ふあり。切[illegible]
三座[illegible]　[illegible]これを[illegible]屋[illegible]ふ傷[illegible]の松あり。此
松[illegible]の古木[illegible]。時[illegible]て梅[illegible]
[illegible]ふ[illegible]の樹ふ[illegible]
羅漢堂　大[illegible]より西の[illegible]。[illegible]
去換者土間でと損者くふ多の利[illegible]
糶出浮[illegible]　此[illegible]ふ[illegible]の[illegible]。[illegible]


三舟
道場仕切切場
そもそもの橋
切戸の礼の辻


三座芝居
戯作
ふるけの
風景
圖
浅草寺
座敷堂
ふるけの
大佐和の松
三座芝居
吉間の内海

然つとふの作り出しする所なりとつふ。此土地の人地うを所
生くあり。古今稀なの深沼なり。

文摩就の宮　茅屋の正面かしこに小こうる石あり。形也焼筋乃
ごく。社殿とこの八角ち庭となり。庭とあり人八神系とする。

此辺に幕梨子とつふ梨樹あり。あぐ目まぐしく風景あり。

花道畷　出羽國切幕郡の畷なり。塚のうもの橋とつふ名字紀
長橋あり。

土間内海　此辺より霞前沼までの小橋をすべて岩の板橋と
つふ。その秋田の畷也ごとし。

切崎れ辻子　此所より大縄屋まとつふ家所あり。茅ぶとる

小ぶぐ暑。元禄五年より。當所土屋密相小似る尾長寺龍あ
りあり。多田の滝沼の滝沼松風の名所よりてごくくの
清水業羅の口より流れあり。その色菓子如し。西小中瓜田と云八此辺。

布子　色ごく茅より黒しし　桃乃くるか　こせ

桟敷ヶ嶽　この山平栗ととふ花りそぐの名所あり。第八岩ち
べち席のぬく。ぬ葉八かけうくしたる毛氈小似る。下八新北
名所あり。西川東川とつふ田流れあり。平間鞍屋古史とつふ家地
の名人七八間打投とつふ大岸の的石なり。ヶ落家ちうぐ。

鞍掛岳　高山なり。いうる耳のちきく人も此山八岩れバ出ぬ
ばり又ごく。高安史お史ぐ。故小鞍の色あり。二月社日より酒を飲

く。山（登まで史ゆう）。在林詩ふ之〳〵う。此ひふ門多〳〵。

樂屋洞　舞臺の補れ摠名なり。幕の内ひなを鏡。その外之所多し

嚙子街衢　そくそのうくゆなり。仆死林ふ〳〵山林の中ふ。可唄

井といふ名水あり。このみを飲ば声の立てるの屁より速多。

三味山　鼓ヶ淵。笛ヶ淵。大鼓岩。すぐ〳〵ふ名新多〳〵。

稲荷街衢　平輩天皇の陵八。番附おのふもの森れ中ふひのもく。此所

より第和泉〳〵ふ原へ出るなり。

頭多紅谷　此谷小多紅所ふ有り。粒玄ふ和出の小初多。ふ〳〵

よる社料と〳〵。蔵衣庄一ヶ如を所〳〵る。神体八所多〳〵の

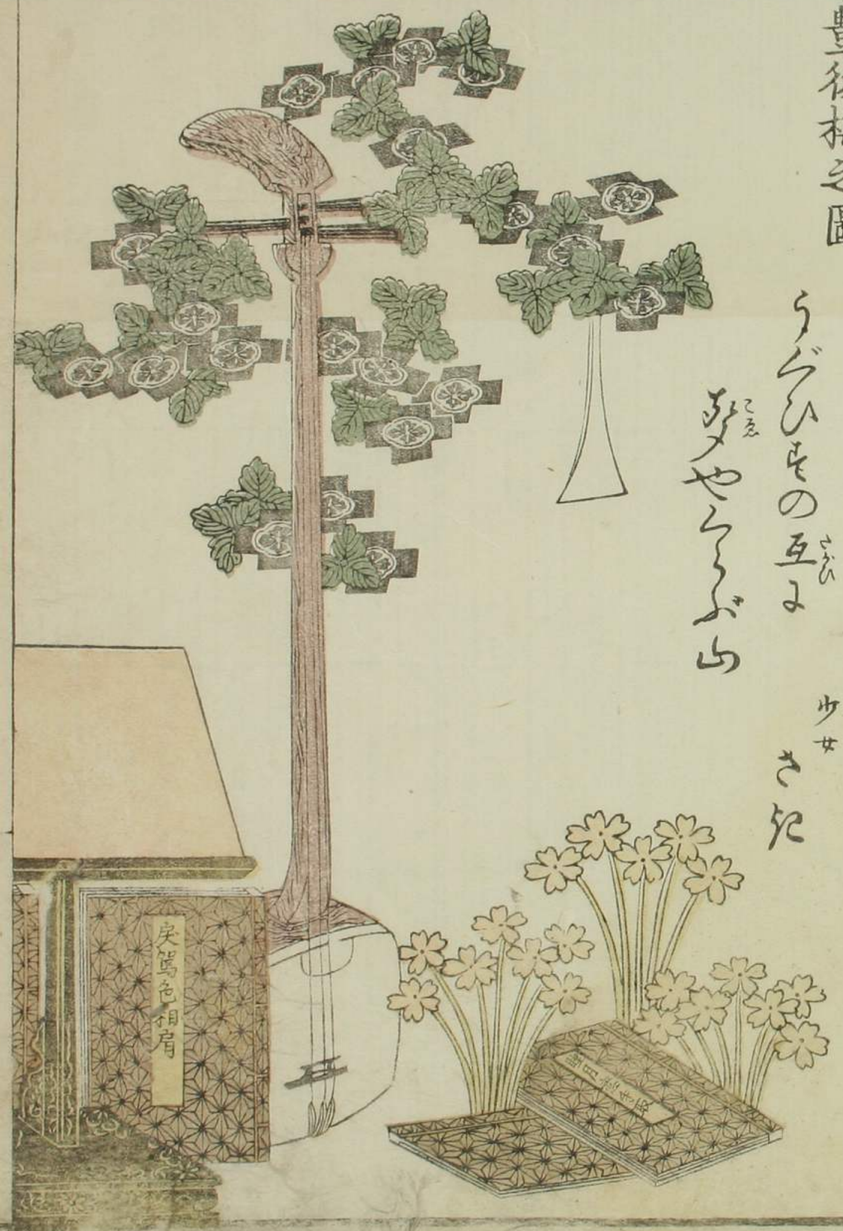
老多を紅〳〵とひ侍ふ。この谷より紅を出と。

豊後梅之圖

うぐひすの互よ

ぬすやらぶ山

さ紀



中二堺三階松　小山の城跡に立薬師敵薬師の半堂。縁地蓄跡ハ今ハなく
二三の巻に出たり。柳当ハ今昇の并丸体足下みしたく。或ハ女と変
じ。あるひハ男と化し老たるを忽ち嫩び。若も都て白髪をいた
だく。実に風流の藪澤に花の仙嵩なり。三階松ハ齢を老せざる
ことを特にめでゝ是仙木といひ傳へたり

猫岳の山　此山紀志の峯より縫出す。世子界をむすと見る人ありしところ
四番続の間道あり。これを猫岳筋といふ世界定といふ所なり。此深渡
深といふ深布を出せ。ゆく古きものを深くもてなすり。稽古の
演を触るゝハ麹渡井に出る。此道しるく急みしるく茲みりしるる
時ハ一夜づけといふ漬物を売る家あり。その漬物ハ芹と蕪にて。

世に芹蕪漬といふも口抜郭丸一口づゝ啗ひする漬物なり。

影浄瑠璃坂　豊後梅の名木あり。秦の始皇丸松と同格なるこの
梅なるを大夫の名あり。葉ハ文字葉冨本家の二葉にてられて生茂
りたり。此坂を洞川名見渡岸汲といふ三絃二筋丸流に至れり。

番附神　三座櫓下より出る神符之神体ハ今日が初日蛇と云蛇身之と云。

芝井碑　此碑碣ハ誉言羽院丸御宇見貫連中先生の建る所なり。
駅編笠丸ごとく。井垣扇の胃に似たり。其文ニ曰

蓋惟ハ芝居三座の社ハ野郎薬師の本地佛にして浄瑠理以
の喜見城寛楽自在の霊場なり。無常丸焼飯ハ盧生が粟の
小笊しくも一日に数年をどるし。去としえれバ秋とこのゝ

戯棚
脚色圖
夕立の雲
へびのこち

天地乾坤一
箇箱
暑寒来往似
葦細
東西口上百
千鳥
花咲老爺唐
繰花
雨のあしろ
雷八上で
足元とのこぶ
生 旦 俵貼 脚色 巧
浄 丑 科 諢 撒 滋 麦

夏ごとおりくハ雨をとゝる。猶小句ハぬ花を添てゝ。まゝ子ぬりされ和
ゝとたづゝ。風宅ゝぬ雪をとゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝれぬ雪をと疑ひ
白夏ハ三井の細後より車油と流し。月日星ハ竹の簀ゝ天上
より吹ゝさゞる。霞ハ絶しく海参をかゞゝるがゝく。浪ハ長し
くへの雪を立ゝるみゝ。ゝひよくの名酒糸の工合ゝ茸
ゝび。ゝゝうゝゝの鬼史最酒臭し。馬ハ潜ゝ人を乗せ。牛ハ
歩ゝもしく抱きて這入る。張篭の茶碗ゝゝゝゝ穿ゝゝ
ゝゝ紙の屏風ゝたゝゝが臣。大厦高楼のめざまし。ゝ子ゝ寂莫
ゝる田舎とゝ諸人雑集ゝ市中ゝ。ゝゝ歩ゝゝる山林と変ゝ。
下紙屏ゝくあゝくハきしくゝ。ゝゝとゝりくハ猶ゝへつゝり居ゝ。

絵ゝ美ゝ姿の美家ゝゝれハ奥の一間へ通る人。五人でゝ三人
でゝ。又出ゝ来ゝゝゝぬ客ゝ多し。ゝゝゝ毛情ハ安ゝ移ゝ。
悪事ゝゝゝゝけ大声ゝゝ密談ゝ吾ゝ錦繡ゝ着ゝ繕ひ
しゝ勿ゝ襤褸ゝ尾羽打枯しゝ生死流離の捨ゝ。日日
のゝゝ。ゝ怒哀楽盛衰絶一時を争ハゝゝゝ汚ゝ
群集。信心勿ゝ借ゝ。或ハ名ゝ三。或ハ詩ゝ。彼岸奥ゝ
あゝくいゝ。私夫ゝゝゝゝゝ。此地の正月世ゝゝゝて十月の
朔日ハ。別ゝゝの元日なりこれ周制ゝゝゝゝゝ。先滅ゝ
その全盛をつゝ。積あゝる蓬莱の山嶽ゝゝゝ。
秋四の花のゝを一夜の間ゝ栽ゝ。盛ゝたる美水桶

曽我祭禮之圖
上下の麻裃

曽我の社
羅文

の水葉とともにこゝに映ずる挑灯ハ田毎の月に異ならず。
椅子柳にとも揺。杜丹立役様武者一度にえいく造化の
幕なし。軒に輝く法被の提灯細工ハ長安城上の春の夜を
おもひ出され春宵一刻價千金役者の紋ぢやもの花やかにしく
客込をの境たむかうて手を拍ハ百千の雷の一度に落るかと
疑ふ。一番太鼓二番鐘をまつぞ。三番叟四更の鐘に先
だちて宮に群れ来る一本足茶屋のした旅立ふ新しき鳥。
桜桜の揚幕几を法ぎ。竈摑の客拇に倜を凝し。
きちがう花道に浮まる小役者ののぼりの水。茶屋が寄進の幟
段ハ虎屋の御菓子法の明香。幸せくを何も古今乃経

功徳ハ鎮任の盆正月一度に来る常しき。桟敷へ百度参道
せし利生ハ目くに新なる見物の芝居ハ人の見物に何てさ
を増もとゑや一ツびこゝに歩みを運び。是貝合郷の菓子ハ痨
痎氣欝の諸病を治し藪入娘の身丈を伸を鳴手奇
といふ錦絵とせん絵幕一面の石に勤しく永く三番の千歳
を綿ん紹に云。

呼のむかし天の磐戸 (印)
松れたてとの色に風世に

同じ正月の花に躍しと (印)
植毛の気に永く続くよ (印)

戯子名所圖會巻之一 終